



六郷中だより

六郷中学校だより 第7号
令和 4年10月21日
発行・文責：校長 深澤裕治

<六中HP>



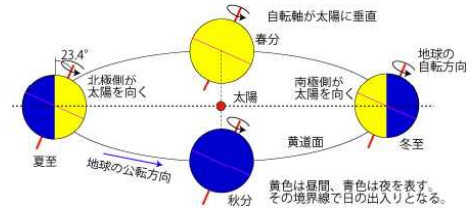
「動き」がきっかけとなって生じる「変化」

秋ならではの爽やかな青空が続き、朝夕は涼しさも感じられるようになりました。夕暮れも日に日に早くなる時期ですので、六郷中学校では、2学期の部活動後の下校時刻を、日没の早まりにあわせて小刻みに変えて設定しています。峡南地区の新人大会が開催される10月上旬までは、夏の下校時刻の5:40とし、新人大会後から10月末までは5:00に、さらに最も日の入りの早くなる11月と12月は4:40としています。では、本校の下校時刻の設定のもととなる日没時刻の変化、つまり昼と夜の長さの変化は、どのようなしくみで起こるのでしょうか。

地球は、太陽の周りをメリーゴーランドのように1年に1回公転しながら、独楽のように1日に1回自転し、その時、太陽に向いている側の太陽の光が当たっている時間が昼の時間となります。

しかし、それだけでは昼と夜の長さには1年をとおして変化がみられません。1年をとおして、昼と夜の長さが変化するのは「地球が、地球儀のように地軸を23.4°傾けながら自転し、太陽の周りを公転していること」が原因となります。そのことにより、1年の半分の間は、私たちが住む北半球側に太陽の光が長く当たる向きに地球が位置し、残りの半年は、反対に南半球側の方に太陽の光が長く当たる向きに地球が位置することになります。

季節は秋。これから12月にかけて、太陽からの光がより南半球側で長く当たる位置に、地球が公転しながら移動していくため、北半球では昼の時間がさらに短くなり、気温も下がっていくことで季節は冬へと移り変わっていきます。



(国立天文台 暦Wiki)

自転や公転といった地球の「動き」がきっかけで生じる昼の時間の「変化」に合わせて、六郷中学校は、下校時刻を設定していることとなります。

何らかの「動き」がきっかけとなって生じる「変化」は、他にも「風などの大気の動き」がきっかけとなる「天気の変化」、「マグマやマンツルの動き」がきっかけとなる「火山や地震などの大地の変化」など、自然界には、きっかけとしての「動き」と、現象としての「変化」に、密接な関係が見られます。

さらに、「動き」がきっかけとなって生じる「変化」の関係は、学校生活にも当てはめて考えることができます。生徒たちは学校生活において、「思考活動としての学習活動」「目的をもって仲間と協力して行う活動」「意識して身体を動かすスポーツ」「五感を研ぎ澄ます創造活動」「心が揺さぶられての感動」など、体や指先、心や感情、さらには頭を使っの様々な「動き」を、日々の学校生活において経験しています。様々な「動き」としての経験がきっかけとなり、生徒たちが今までより向上し、伸張したものの「変化」、つまり生徒たちの「成長」へとつなげていくことが、生徒たちの学習活動であり、私たち教職員にとっての教育活動となります。

3年目となったコロナ禍の第7波の渦中にある今、最新の知見に基づくコロナ対策をとりながらも、課題解決と創造の視点に立ち、特色ある六郷中学校の教育を旨として、生徒たちの「動き」としての教育活動をより良いものへと改善し、より良い「成長」へとつなげていけるよう、そして、これからも「生徒たちが学びたい、保護者が通わせたい、教職員が勤めたい、地域が応援したい学校」を旨としていきたいと考えています。これからも、ご理解とご協力をお願いいたします。